

大学等における価値創造人材育成拠点の形成事業 最終年度評価結果
(様式3)

| | | | |
|------|---|-----|------|
| 整理番号 | 2 | 大学名 | 京都大学 |
| 事業名 | 京都クリエイティブ・アッサンブラージュ (Kyoto Creative Assemblage) | | |

【総括評価】

A：計画どおりの取組が行われ、成果が得られていることから、本事業の目的を達成できたと評価できる。

【コメント】

<優れている点>

- ・人文社会科学・アートによる社会の再定義を提案するコンセプトが挑戦的であり、それを体現するプログラムの構築、支援コンソーシアムの形成、修了生コミュニティの構築など計画通り実現している。
- ・応募者数/受講者数の全期間目標を達成し、受講者数の満足度や修了率も極めて高い。教育プログラムの基礎的指標等も概ね安定して推移している。
- ・三大学の特色を活かした独自性の高いカリキュラムであり、民間有識者を交えた産学連携体制、座学と演習の連続性など新たな大学連携による学びの拠点形成が実現されている。
- ・中間評価等の指摘を踏まえ、新規概念の浸透やプログラム精緻化など継続的な改善が評価できる。また、委託終了後の一般社団法人による推進体制や経費シミュレーションなど、自走化するための準備も進んでいる。
- ・ウェブやイベント等を通じて積極的に情報発信を行い、短縮版や派生プログラムなど普及に向けた取り組みも進んでいる。
- ・修了生・講師・関係者のコミュニティが強固に形成され、修了生がメンターやプロモーターの継続的な学びの深化や拡大が行われている点は特に高く評価できる。

<今後、期待する点>

- ・『学位プログラム構築』（既存体系への組み込み含む）や『横展開』については、明確に確立されたとは言えず、3大学および各大学内への位置づけ・組織的な連携体制を構築し、本プログラムが受講生に対して継続的に提供できるよう改善を期待する。
- ・受講者が意識・感度の高いパイオニア層に限定されがちなため、フォロワー層の巻き込み策も必要と考える。例えば、企業派遣（推薦）型など新たな受講動線の構築も期待する。
- ・上記②に関連するが、プログラムの説明が概念的・抽象的なため学修成果が把握しにくく、個人・企業にとっての参加メリットや修了後の具体的な活躍像が依然としてイメージしづらい。新しいデザインアプローチとの接続をより明確に示す工夫や、修了生等による情報発信など本プログラムの独自性を伝える発信方法の改善を期待する。
- ・修了生の満足度や継続的な学びの意欲が極めて高く、社会的にも今後期待されるプログラムであるだけに、運営側の都合や努力不足で継続が断念されないようにしていただきたい。社団法人等を中心に経営基盤（運営資金やマネジメント人材等の確保）を確立し、扶助会員企業による継続的なサポートが着実に実行される取り組みを期待する。